

岡崎市議会議長 様

支出番号	
------	--

会派名	民政クラブ
代表者名	加藤学

下記のとおり、政務活動を実施したので報告します。

政 務 活 動 報 告 書

令和 5 年 11 月 8 日提出

活動年月日	令和 5 年 10 月 11 日（水） ～ 10 月 13 日（金）	
氏名	三宅健司、柴田敏光、原紀彦	
用務先 及び 内 容	1 10 月 11 日	用務先 青森県八戸市
		内 容 ジャズの館南郷について
	2 10 月 12 日	用務先 青森県八戸市
		内 容 第85回 全国都市問題会議について
	3 10 月 13 日	用務先 青森県八戸市
		内 容 第85回 全国都市問題会議について
	4 月 日	用務先
		内 容
備 考		

委員会・会派名	柴田敏光（報告者）、三宅健司、原紀彦
研修日時	令和5年10月11日(水) 14:30~16:00
視察先・概要	青森県 八戸市 ・人口 218,732 人 ・世帯数 110,234 世帯 ・面積 305.56k㎡
視察内容	『ジャズの館南郷』について
選定理由（目的）	本市には図書館交流プラザりぶら内に、“内田修ジャズコレクション”のコーナーがあるが、もう少し市民に周知すること及び足を運んでいただける工夫が必要ではないかと考える
岡崎市の現状と課題	市民利用が少ないので、市民周知が必要である
 集合写真  説明受  館内  館内  館内	建築年度：平成12年 事業費：約1億5,900万円（備品等含む） 延床面積：248㎡ 設備：映像、音響、照明設備、ピアノ、ドラムセット 管理体制：指定管理者制度 年1回のジャズフェスティバルだけでなく、通年でジャズを楽しめる・体感できる施設を！ ◆ こだわりの音響機器⇒平成26年 リニューアル ◆ CD、LP6,000枚所蔵 ◆ 八戸市内ジャズバンドの練習・ライブだけでなく、休憩や喫茶など住民憩いの場としても活用されている。 施設利用者 ・令和元年度 12,623人 ・令和2年度 12,427人 ・令和3年度 11,325人 ・令和4年度 17,900人 ※ジャズの館南郷は、スポーツ施設や商業施設など複合的な総合施設の一つとして設置してあることから、市民に利用しやすい施設となっている。 説明後の質疑応答 Q 輪芸者による働きかけについて、若者をやる気にさせる仕掛けは何かあるのか A 村おこしの時代、出会いの場と村長さんのジャズが融合して取組が進められた。 Q 屋外はどここの場所で開催しているのか、また、どれくらいの参加者がいるのか A 収容人数2000人がマックス 参加者も1,500人程度 Q ジャズの館でのライブ開催頻度は A 年4回 Q ジャズの館建設や運営における経済効果は？ A ジャズに親しんでもらうという効果がある。1日20万円ほどの効果が出ている Q 利用者の声は A 敷地内の少し入り込んだ所にあるので、目につきづらいという声がある。 Q 地元の声があれば A 近くのホームセンター店に車を停める方がいた。



ジャズの館南郷前

Q 今後の展開

A 利用料が無料などの情報をしっかり打ち出して、誰でも使ってもらえる環境づくりを行う

Q 南郷地区から人口が流出している。中心市街地とこちらの南郷地区は、ジャズの温度感はどうなのか

A ジャズに関心のある方が高齢になってきている。若者はあまり関心がない感じを受けている。

Q ジャズに関心を持ってもらえる手立てはないか

A もっと気軽に演奏する場を提供できれば良いのでは。また、中高生は有料だったが、今年高校生以下を無料にした。ジャズとか音楽に触れる機会を提供した。

【柴田敏光】

岡崎市の内田修ジャズコレクションは展示施設及び視聴を楽しめる施設である。ジャズの館南郷は市民がジャズをいろいろな楽しみ方ができる施設である。コンサートを楽しみ、飲食をしながらレコードなどを楽しみまた、ジャズ演奏を市民が行える館でもある。幅広く市民が楽しめる事で利用者人数も増えることで活性化にもつながっている。岡崎市も有効利用できる工夫を考え、ジャズの街であることをもっと強調するべきと考える。

【三宅健司】

八戸市南郷地区とジャズとの関わりは古く、過疎化を防ぐために昭和45年にジャズの里づくり事業を始めた。さらにこれから地域の誇れるものを創設するために当時のジャズ好きの村長さんと地区の若者グループとが協力して「ジャズフェスティバル」がスタートした。以来、年4回のジャズフェスティバルの開催をしてジャズは地区になくってはならないものになった。本市においても毎年11月にジャズストリートが開催されるが、まだまだその認知度は低いと感じている。ジャズに触れる機会の増加と普段からジャズを耳にする必要性を強く感じた。また、同時に地元でジャズフェスティバルなどを開催していくマンパワーもなくてはならない存在であると考えている。

【原紀彦】

南郷地区とジャズは昭和45年旧南郷村が過疎地域に指定されたことによる暗いイメージを払拭し人口流出に歯止めをかけるために、南郷村に住む10代後半から40歳くらいまでの男女約20名で構成された若者グループ「輪芸者（わけいもの）」と当時の村長のジャズ好きが融合しジャズフェスティバルが誕生。その後脈々と受け継がれ現在では毎回1,500程度の人々が参加している。

JAZZの館 南郷は年1回のイベントだけでなく、通年ジャズを楽しめる・体感できる施設の要望から建築された。いつでもJAZZに触れられ、ゆったり聴ける施設として開設された。他では聴けない「音」を追求し、音響に拘った設備と幻の名盤LP3,000枚・CD3,000枚を取り揃えられている。施設利用者数は、年々増加傾向にあり（令和元年12,623人→令和4年17,900人）南郷地区の振興に大きく貢献していると伺った。

若者にジャズに関心を持ってもらうための工夫として今年度から高校生以下の学生にはジャズライブの参加料を無料としている。こうした若い世代を取り込みジャズのファンを増やすための取組やジャズの館の魅力は、本市における「ジャズの街岡崎」を活性化させるアイディアとして参考になった。

本市への反映

（意見・課題など）

●政務調査視察報告書 (No.514)

委員会・会派名	(民政クラブ) 三宅健司、柴田敏光、(記) 原紀彦
視察日時	令和5年10月12日(木) 9時30分～10月13日(金) 12時
視察先・概要	青森県八戸市 【人口】218,732人 【世帯数】110,234世帯 【面積】305.56km ² 青森県東部に位置し中核市に指定されており、県庁所在地である青森市や弘前市とともに、青森県主要3市の一角を構成する。
視察内容	「第85回 全国都市問題会議」について
選定理由(目的)	文化芸術・スポーツが生み出す都市の魅力と発展の講演を拝聴し、本市の取組の参考とする。
視察概要及び評価	●基調講演 アートの役割って何だろう？ 東京藝術大学長、アーティスト 日比野 克彦氏 (1) アートは生きる力 アートに欠かせないのがイメージする力、想像力。アートは人が人らしく生きていくためにとても重要な役割を持っている。 (2) アートは多様性の指針 アートには周辺のさまざまな違った色が集まってきている場所でもあり、アートがそれぞれの色と繋がっている。 (3) まとめ 想像力を備えているアートは人の生きる力になって、一人ひとりの差異を個性という価値観を持つアートは、社会課題に取り組んでいく上で大切なものである。近代社会において、さまざまな社会課題に対して、アートの特性を活用することができると思う。 ●主報告 八戸市の文化・スポーツによるまちづくり 青森県八戸市長 熊谷 雄一 (1) 文化によるまちづくり 中心市街地活性化という地域課題がクローズアップされた。2011年新たな交流と創造の拠点として開館した八戸ポータルミュージアムはっちは、地域資源の魅力を創出・発信している。 その後、点から面へと同様のコンセプトを共有しながら、八戸ブックセンター、八戸まちなか広場マチニワ、八戸市美術館など、市民等のニーズに応えられる文化施設を整備した。 (2) スポーツによるまちづくり 市内各所の貯水池は天然リンクになったことから古くからスケートが盛んであった。多くの大会も開催されていることからスケートは八戸の風土が育んだ文化といえる。2019年防災拠点を併せ持つ屋内スケートリンク「八戸市長根屋内スケート場アリーナ八戸」がオープン。この施設



▲八戸市公民館(八戸市公会堂文化ホール)にて





は半日でバスケットボールコートに転換が可能で、スポーツ・ツーリズムの推進などの都市経営の新たな可能性を秘めている。

(3) まとめ

効率や成長を重視することから、成熟社会への価値観の転換を前提としたまちづくりのあり方の1つとして、互いの顔や活動が見える空間づくりにより、コミュニティ感覚を醸成し、そこで誘発される交流から（より良い社会をつくる）創造が生まれれば良いと考える。

●一般報告 まちづくりの活力は地域に根ざした文化政策から育まれる 文化事業ディレクター 演出家 吉川由美

地域課題が山積する今、文化政策はどうあるべきか。観光産業や関係人口獲得にとって「地域固有の文化」はキラーコンテンツである。これは経済活動をブーストするパワーを持っており、一方で「地域の分母としての文化」は、災害などの危機から再生する力やインクルーシブな思想を住民の中に育み、自身を肯定しながら安心して生きられる社会の礎を創る。

●一般報告 標高差 1,500m の地勢を活かしたスポーツ・ツーリズムの創出 長野県東御市長 花岡利夫

平地が少ないことが「まちの欠点」として捉えられていたが、地方創生で大切なのは欠点を認めたくてで転換思考をもって地域の資源（価値）につなげる。その一つが高地トレーニングを中心としたスポーツが生み出す都市の魅力と発展である。

「湯の丸高地トレーニング施設」は、設置によって利益を得る者（ステークホルダー）等と相互に協力し合うという意識改革、地域とともに支えるという新しい形の地域づくりスタイルこそが地方創生である。

●一般報告 まちづくりにおけるプロスポーツクラブの有効活用 株式会社鹿島アントラーズ FC 取締役副社長 鈴木秀樹

自治体から見ると、地域のプロスポーツクラブには、まちづくりにつながるさまざまな使い道がある。例えば、アントラーズが行なっているスタジアム来場者、ファン、サポーターを対象に定期的なアンケートを実施している。この結果から、道路の渋滞、交通アクセス、宿泊施設、駐車場など、地域が抱える課題が浮かびあがる。このように活用を進めれば社会課題も解決し、まちづくりを推進することができる。

●一巡した文化芸術を活用したまちづくり～自治体文化行政から魅力的なまちへ～ 東京大学大学院人文社会系研究科 小林真里

近年開館している図書館など新しく建て替えをしているものについては、これまで惹きつけなかった人たちを惹きつけ、活気を呈している。それは、本来の機能を原則に立ち返って問い返し、何を継続させて、さらに

進化させていくという視点から捉えられた結果であり、むしろ文化の本来的な価値や機能に気づいたということになる。

**●八戸の独自性が生み出してきたもの 合同会社 imagimu 代表取締役
今川和佳子**

まちをフィールドにしたさまざまなアートプロジェクトに取り組んできた。「酔っ払いに愛を 横丁オンリーユーシアター」、「デコトラヨイサー」、「はっち流騎馬打球」など、アーティストと市民、そして八戸ならではの文化をテーマに掛け合わせることで、無数の発見と人のつながりが生まれた。ここ十数年で複数の文化・スポーツ施設が整備された八戸だが、地域に根付く「文化」と市民のポジティブなエネルギー、創造力を引き出し続けることが、次のステージのスタートラインになる。

**●地域活性化におけるスポーツの役割とその変化 拓殖大学商学部教授
松橋崇史**

実社会の取り組みは、スポーツのように明確なルールや対戦相手、本番としての大会が存在しているわけではないかもしれない。しかし、スポーツから得られるインスピレーションによって、地域を活性化することとスポーツがリンクして語られる。多様な人々の活躍を目指すスポーツは、パラスポーツ、ゆるスポーツ、e スポーツなどを含みながら変化し拡張している。変化するスポーツの特徴を捉えること、もしくは、スポーツに新たな価値を付与することを通じて、スポーツを地域活性に活かしていく視点が重要と考える。

●スポーツとアニメを活用したにぎわいの創出～誇り高い沼津を目指して～ 静岡県沼津市長 頼重秀一

本市は海山川の豊かな自然に恵まれ、サイクリング・マリンスポーツを楽しめる海岸線エリアやハイキング・トレッキングが楽しめる丘陵エリアなど、バラエティに富んだスポーツエリアを数多く有している。「ラブラライブ!サンシャイン!!」は、内浦地区の学校を舞台に結成されたアイドルグループの奮闘と成長を描く物語でテレビや映画で盛り上がりを見せた。スポーツ・アニメを通じ、新たな市民や企業間の交流が生まれ、ビジネスチャンスが創出された。

●文化芸術・スポーツで紡ぐまち・綾部～市民一人1文化・1スポーツの推進～ 京都府綾部市長 山崎善也

多くの市民が文化芸術に触れ親しむ機会の充実を図り、「市民一人1文化」の推進により文化のかおるまちづくりを目指している。また、それぞれのライフステージに応じて、いつまでもスポーツを楽しむことができるように、「市民一人1スポーツ」をスローガンに掲げ、スポーツの力で人

	とまちの活性化と都市との交流を進めている。 まずは住民自身がそれぞれの地域に誇りを持たない限り、定住や交流の促進はない。住民が自信を持って自分たちのまちの素晴らしさを語ることから地方創生は始まると考える。そして、文化芸術やスポーツの魅力や価値を最大限活用することが重要な「鍵」となる。
本市への反映 (意見・課題など)	【三宅健司】 「文化芸術・スポーツが生み出す都市の魅力と発展」というテーマで2日間にわたり基調講演、一般報告、パネルディスカッション形式で開催された。一般報告で印象に残ったのは、「標高差1,500mの地勢を活かしたスポーツ・ツーリズムの創出」であった。人口約3万人の長野県東御市は欠点である標高が高い所にある自治体を自覚し、それを個性という長所に替えました。全天候型400mトラック、高地トレーニング用屋内プールや宿泊施設を整備して、世界レベルの選手のトレーニング場としたことは驚きであった。 また、この事業には市民の理解と地元企業の協力が不可欠であるが、市長の熱意があったからこそ実現したものと実感しました。本市の額田地区にはロードバイクで走る方が多く、本格的なトレーニングをする方、趣味としてサイクリングを楽しむ方さまざまです。この素地を活かすことができるよう今後調査研究が必要であると感じました。 【柴田敏光】 街起こしを行うための一つの考え方であり、地の利を生かした工夫で他の自治体にはできない内容を生み出すことが重要ではないかと考える。 また、多くの方が求めているものを調査し活かされることがあるのか検討することが成功につながると考える。アンテナを高くし、スポーツに限らず幅広く可能性を探ることが必要であると考えます。 今回の講演の内容は、標高を活かした低酸素のトレーニングは競技者にとって求めている施設でもあるので、成功事例と考える。 本市もただ施設をつくる、誘致活動をするだけではなく調査・データ集めを密に行い可能性をしっかりと検討することを強く要望する。 【原紀彦】 文化芸術とスポーツは、地域の活性化に重要な要素であることが今回拝聴してよく分かった。地域固有の文化やアートプロジェクトは地域の特性を活かすことで、市民交流と創出を生み出す。また、スポーツは地域のアイデンティティを形成し、市民との結びつきを強固なものにできる。 特に印象に残ったのは、「まちの欠点」を地域の資源（価値）につなげるための転換思考が大切で、それが地域の独自性や誇りを育み、社会課題を解決する道をも切り拓くことができる重要な手段になるということを感じることができた。